

1 川島良一監修『日本農村生活研究改編「農村生活研究の軌跡と展望』

筑波書房、1993.10. P238, ¥2,500

宮崎大学 神谷 一夫

本書は、日本農村生活研究会が毎年開催している研究大会が平成4年10月で40回を迎えたという記念すべき節目にあたり、これまでの研究会の歴史を振り返り今後の研究の方向を探ることを目的として出されたものである。

内容は、第1部の「農村生活研究の軌跡」と第2部の「農村生活の展望」の2部に分かれており、前者においてこれまでの農村生活研究の歩み、時代の流れのなかで、試験研究機関や農協、普及事業、大学等との結びつきにおいて把握されている。農村生活研究のこれまでの研究史を知ろうとするものにとっては、それぞれの時代において、現実の問題が何で、それがどのように研究課題化され、いかなる方法で研究され、成果が出されたかが容易に理解できる内容になっている。これに対して第2部の「展望」では、これまでの研究の成果と残された問題をふまえ、さらにこれから農村生活の方向づけに基づいて研究の新しい視角が求められている。研究の視角として国際化、環境保全、都市化、高齢化、情報化、技術革新の方向があげられている。

以前は農村の貧困や封建的慣習からの解放、民主化・近代化の追求という目標が生活研究の全ての分野の基底に存在していた。しかし、現在の農村生活研究は、価値の多様化状態のなかで、その共通の方向性を模索している状況にある。今日、生活問題を研究するものが、それぞれ研究者なりの生活に対する理念（未来を先取りした価値）をもとに研究の深化を図る一方、各独自の研究をもとに議論を行う。そのことによって、生活研究の共通認識が形成されていくのではなかろうか。本書は、生活問題の実践者のみならず生活研究を行っているもの、これから研究しようとするものにとって、今までの問題点や研究の方向を知り、さらにからの研究視角を探るためにも時宜を得た書である。